

北杜障がい者の生涯学習教室 中通クラス 活動報告2025

中通クラスの歩みと展望



2026.2.21

社会福祉法人北杜
事業本部長
佐々木将樹

法人紹介と「中通クラス」の立ち上げ



1997年

社会福祉法人北杜 設立（秋田市下新城下中野）

1998年

障がい者支援施設ほくと開設

2024年（1年目）

文科省事業に賛同し活動開始

会場：就労継続支援事業所「リ：ミックス」

イベント的開催・集客に奔走

2025年～現在（2年目）

メンバー4～5名の定着



活動の変遷

文部科学省の事業に賛同

当初はイベント的な開催だったが、

徐々に「居場所」としての機能へ移行。

障がい者の「学び」と「居場所」を求めるニーズに応えるため、
地域に根ざした活動を継続している。



2025年度 3つの活動目標



1.

コンテンツの充実

学びの内容をより深く、楽しく。
参加者の興味関心に合わせた多様なプログラムを展開。



2.

メンバーの増員

参加者を増やし、活気を生む。
新たな層へのアプローチを強化し、
コミュニティを拡大。



3.

持続可能性の追求

助成金に頼らない仕組みづくりを
模索。



講師主導から参加者主体の活動へ

初期（講師主導）

 eスポーツ  写真  アート  防災



あらかじめ用意されたプログラムを体験する形式が中心。

現在（これまでの内容に参加者のニーズも+）

 運動や運動系ゲームの導入  ボードゲーム対戦

 自由な交流時間



「やりたい」を形にするプロセスを通じて、主体的な関わりが増加。

生まれた社会性

意見の衝突や不満を経て、「譲り合い」の精神が芽生えた。

「次回は〇〇さんのやりたいゲームから始めよう」というやり取りが自然と発生！

作業療法士による評価の導入

2名

講師陣に在籍する
作業療法士（OT）

3名

年間を通じて
安定参加した対象者

分析

活動状況を
専門的に分析

📌 “楽しさ”を専門的視点で支える

単なる「遊び」や「イベント」で終わらず、
参加者の参加・コミュニケーションを専門的に
評価。

- 個々の特性に合わせた環境調整
- 活動を通じた社会性の変化を可視化
- 継続的な参加を促す動機付けの分析

作業療法士による評価

「①趣味・活動」「②コミュニケーション」「③人との関わり」「④自分自身の気持ち」の4項目（全14問）について、
中通クラス参加者へ聞き取りを行ない（1回目：2025年6月 2回目：2026年2月）、比較検証。

【1回目 2025年6月】

<Aさん>

「新しいことに取り組むことに関心がない。」

<Bさん>

「やってみたい活動は特にない。」

<Cさん>

「誰かと協力して物事に取り組むのが苦手。」

【2回目 2026年2月】

<Aさん>

「新しいことに取り組むことに興味がある。」

<Bさん>

「やってみたい活動が出てきた。」

「新しい人と出会うことを大切にしたい。」

<Cさん>

「最近は前よりは協力して取り組んでいる。」

「消極的・内向的」な状態から「意欲的・開放的」な状態へとパラダイムシフトが起きている

結果からの分析

1. 「スモールステップ」による成功体験の積み重ね

⇒活動を通じて「自分にもできた」という小さな成功を繰り返したことで、自己効能感が高まったか。

☆未知の事柄が「脅威」から「楽しみ」へ。

2. 居場所としての「心理的安全性」の確立

⇒「誰かと協力するのが苦手」の背景には、過去の失敗や、否定されることへの恐怖があったか。

☆講師や周りの参加者が、ありのままの自分を認めてくれる（受容的環境）と確信できたことで、心の防衛本能が解け、他者と関わる「心の余裕」ができたのでは。

3. 承認欲求の充足と社会的役割

⇒自分の役割を全うしたりする経験が「自分はコミュニティに貢献している」という実感へ。

☆「自分一人の世界」から「他者との繋がりの中の自分」に価値を見出すようになり、交流を大切にする意識が芽生えた。

最大の変化は、「自分を守る段階」から「自分を広げる段階」への移行

広報・集客の現実と課題

📌 活動 (Effort)

- 📄 チラシ配布
行政機関や関連事業所への配布を実施。
- 📷 Instagram運用
フォロワー数が50人から80人へ増加。



📈 成果 (Result)

ボランティア

0人

新規参加者

1名



The poster is titled 'あなたの趣味活動を障害者支援の現場で活かす' (Use your hobby activities in the field of disability support) and '学生ボランティア募集' (Student Volunteer Recruitment). It promotes the '中通クラス' (Nakadoori Class) as a place where students can gain practical experience. The poster includes a map of the area, a QR code, and contact information: TEL018-873-7801. It also mentions the location '秋田市中通4丁目3-23' and the time '16:00~17:00'.

固定メンバーは定着したが、関係人口の拡大には至らず。

「助成金」から「制度活用」へ：持続可能な運営モデルの模索

✕ 検討・断念したモデル

大分モデル（行政連携）

行政との直接連携による取組を視察してきたが予算化については、大分県でも高いハードルがある。



✔ 新方針：制度事業への組み込み

地域活動支援センター

「居場所」機能としてのマッチングを図り、既存の福祉枠組みの中でクラスの運営を目指す。

厚労省モデル事業（R7～）

「特別支援学校卒業後における生活介護利用モデル」
特別支援学校卒業後の生活介護利用を見据えた、新たなモデル事業への参画を検討。

 財源を確保し、活動を継続する仕組みを構築

2025年度総括と今後の展望

✓ 成果

運営・内容の質は着実に向上。参加者の満足度も高く、専門的評価による活動の可視化が進んだ。

⚠ 課題

参加者数・活気の不足が依然として残る。
固定メンバー以外の「関係人口」の拡大が急務。
助成金がないと考えたときの、持続可能性。

→ 地域活動支援センターや生活介護モデル事業などの制度事業活用をを具体的に検討！

「障がいの有無に関わらず、**学びと交流は生活を豊かにする。**」

この意義を広げ、制度の中で継続していく。

中通クラス参加者の評価について

令和8年2月25日

文責：若狭利伸

作業療法士が中心となり、「【1】趣味・活動」「【2】コミュニケーション」「【3】人との関わり」「【4】自分自身の気持ち」の4項目（全13問）について、中通クラス参加者へ聞き取りを行ない（1回目：2025年6月 2回目：2026年2月）、比較検証を実施した。

それぞれの回答については、「よくあてはまる」「あてはまる」「あてはまらない」「まったくあてはまらない」の選択肢から選んでもらい、「よくあてはまる」：4点、「あてはまる」：3点、「あてはまらない」：2点、「まったくあてはまらない」：1点と回答を数値化した。質問の【1】～【3】までは満点が16点、【4】自分自身の気持ちに関しては、1～10点での自己評価とする。

☆質問内容（参考）

【1】趣味・活動について

- ①日常的に取り組んでいる趣味がありますか？
- ②自分の好きなことに取り組む時間を持っていますか？
- ③新しいことを学ぶことに興味がありますか？
- ④自分でもっとやってみたい活動、やりたいことはありますか？

【2】コミュニケーションについて

- ⑤自分の気持ちを他の人に伝えることができますか？
- ⑥誰かと一緒に活動することが好きですか？
- ⑦自分から動いたり、考えたりすることはできますか？
- ⑧人と話をする時に抵抗はありません。

【3】人との関りについて

- ⑨新しい人と会うことを大切にしていますか？
- ⑩誰かと協力して物事に取り組んでいます。

⑪もっと色々な人と関わってみたいと思いますか？

⑫人と一緒に何かに取り組んでみたいですか？

【4】自分について

⑬今の気持ちはどうですか？（10に近づけば近づくほど良い）

【個別の評価比較】

1. Aさん（40代男性）

	趣味・活動	コミュニケーション	人との関わり	自分について
1回目	13点	15点	12点	4点
2回目	16点(+3)	15点(+0)	15点(+3)	5点(+1)

新しいことへの取り組みを進めたり、人との関わるの機会を増やしていきたいと前向きな回答が目立った。実際に自らカードゲームを持参して新しい取り組みをスタートするなどの変化もみられ、来年度以降の参加の意思も示している。

2. Bさん（20代男性）

	趣味・活動	コミュニケーション	人との関わり	自分について
1回目	9点	9点	11点	8点
2回目	10点(+1)	9点(+0)	11点(+0)	5点(-3)

参加前のアンケートでは「自分でもっとやってみたい活動、やりたいことはありますか？」の問いに対して消極的だったが、参加後は「もっとやってみたい活動がある」と変化がみられた。【4】自分について、-3となっている部分に関して、関わり方や内容に問題が無かったか、ご本人の生活に何か変化があったのかを精査していく。

3. Cさん（20代女性）

	趣味・活動	コミュニケーション	人との関わり	自分について
1回目	14点	16点	12点	5点

2回目	16点 (+2)	16点 (+0)	15点 (+3)	8点 (+3)
-----	----------	----------	----------	---------

中通クラスに参加し始めたタイミングで就労支援の事業所を変更。以前に比べて人との関わり方が変わったと話す。特に協力することに関しては、中通クラスで学べたのではないかと自己分析していた。

【総合評価・分析】

三名とも趣味・活動への興味や関心のスコアが高まっていた。また、人との関わり方が良い方向へ進んでいるだけではなく、人と関わる楽しさも感じているようだ。

1. 「スモールステップ」による成功体験の積み重ね

⇒活動を通じて「自分にもできた」という小さな成功を繰り返したことで、自己効能感が高まったか。

☆未知の事柄が「脅威」から「楽しみ」へ。

2. 居場所としての「心理的安全性」の確立

⇒「誰かと協力するのが苦手」の背景には、過去の失敗や、否定されることへの恐怖があったか。

☆講師や周りの参加者が、ありのままの自分を認めてくれる（受容的環境）と確信できたことで、心の防衛本能が解け、他者と関わる「心の余裕」ができたのでは。

3. 承認欲求の充足と社会的役割

⇒自分の役割を全うしたりする経験が「自分はコミュニティに貢献している」という実感へ。

☆「自分一人の世界」から「他者との繋がりの中の自分」に価値を見出すようになり、交流を大切にする意識が芽生えた。

最大の変化は、「自分を守る段階」から「自分を広げる段階」への移行ではないかと考える。